

カルカソヌ世界選手権報告²⁰¹³ 岩村 響

カルカソヌ世界大会への日本からの出場は3回目、先人の戦績に近づき、さらに上を目指す意気込みで臨んだ大会の結果は残念な体となりました。

以下のレポートで振返りを試みるので、カルカソヌに熱意ある方への今後の参考になればなりよりです。当事者の見聞きゆえ、つぶさに観察せず一部記録等と異なる場合や過去二例のレポートとダブリがある場合はわらっておゆるしてください。

1.参加者

今回は昨年より参加国が4つ増えて36カ国。

チェコからは前回世界チャンピオンと国内代表の2名が参加。どなたかお二人不参加で35人がエントリーした。

東アジアでは台湾、香港からの方を見かけ、世界の中で親近感を感じ(BSWで漢字筆談が少々通じた、というもある)話しやすい。

ヨーロッパ勢は常連も多い様子、幾人かは過去に小向さん、村田さんとの対戦もあるとのことだった。



会場入口に参加国の旗が掲げてある。

2.スケジュール

予選6試合スイスドロー式は日本選手権と同じく午前4試合、午後2試合。

進行スケジュールに関しては主催者の方から”時間厳守”とたびたびいわれ、昨年度大会では時間無制限としていた決勝戦の進行も持ち時間30分に改められた。

準決勝までは持ち時間15分、決勝の持ち時間が長いのは、通常より大きい札とミープルを使うためだろう。

3.ルール外のマナー

大会開始前にプレイヤー同士でマナーについて話合っていたのを聴いていたが、相手が手を打つ間に次の自分の札をあらかじめ引いて見ておく通称「先引き」は定番となっている様子。

さらに、自分の手番で札を配置して即得点ができる場面で、コマを置かずに得点カウントするのもアリ、となっていた。

その手法の善し悪しはともかく、時間制限がある中でプレイ所作として、上級者同士の対局だからお互いわかるでしょ、として簡略化する流れは感じられた。

4.チェスクロック

持ち時間の15分はチェククロックで管理。参加者は体格の良い方も多く、その上クロックをバシバシたたく。

クロックはアナログ式とは聞いていたが、しかもゼンマイ式、西ドイツ製だった。少なくとも25年以上はこのように働いているであろう時計が壊れずにいることに改めて感心。

大会終了後はスタッフの方がそっと木箱にしまっていた。大事にされているようだった。



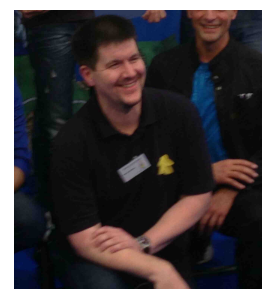
5.予選

強豪国チェコの代表との初戦。

互いに持ち時間7分を残し終了、それでも札カウントは完全にふまえている様子だった、すごい。

コマの殺し合いの末、得点能力がつきたところで相手に得点を許しての負け。相手の典型的なヘイトプレイヤーの振舞いだった(全然アリです)。

次戦以降も共通する印象として、相手のミスを見つけることがとても少なかった。岩村が十分実践できないため具体的に表現しがたくてすみません、なことだが、ミス未満の相手の苦しい一手を誘う仕込み合いをしてくる。キータイルを引ければ勝負が決まる、という水準の展開でとったりとられたりの2勝3敗1分け。25位で終了となった。



司会兼イベントを取り仕切ったトマスさん

6.準決勝一番卓

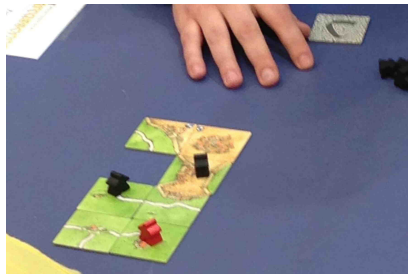
予選6戦を終え一番卓に勝ち上がった去年の世界チャンピオン(コマ赤)と挑戦者ポーランド代表(コマ黒)の対戦は、挑戦者が盤面を含め正味20点くらいのリード(残りコマ数、挑戦者1、チャンピオン3)で終盤へ入った。

双方残り7手ずつくらいだったろうか、ここで挑戦者が大きめの完成見込みのない街へ最後のコマを投入、後は街を大きくするだけの作戦で逃げ切りをはかる。

しかし、その後チャンピオンは次々小さなポイントを積み追い込みをかけ、街の拡大もジャマする。

最後から2手目でチャンピオンが三辺都市を引き4点ポイントできる箇所を見落とし？という場面があったが、最終手を指し終えポイント計算すると僅差での逆転勝ち。

勝負が終わりチャンピオンが話す声は離れていて聞こえなかったが、遠巻きに見るゼスチャーでは最後から2手目のポイントは取らなくても勝てると知っていたんだ、と伝えていた。冷静すぎるチャンピオンの本領を見た。



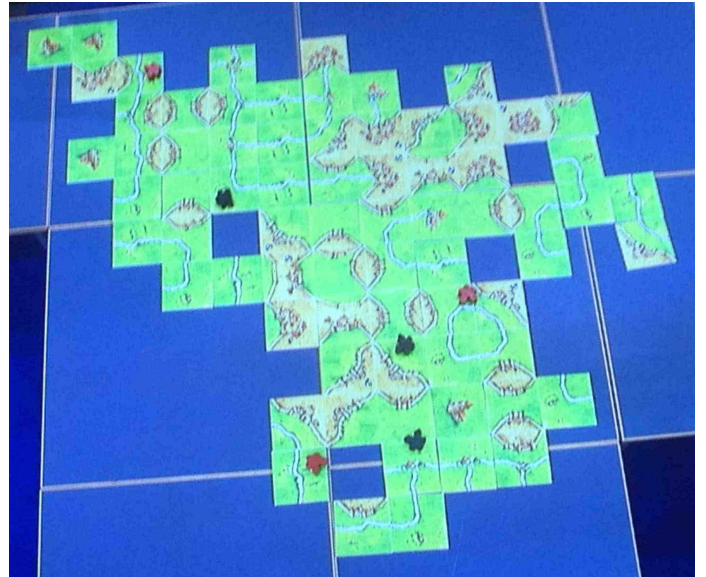
この局面で赤が5分間の長考、手にしているのは最もシンプルな札のひとつ「カーブ」。

7.決勝

前回世界チャンプが決勝進出。連覇なるかと思ったら、本人の落ち度がないまましかし終始苦しんでいる。

一方、挑戦者のギリシャ代表の方は楽そうな局面をわたってゆく。平地30点を挑戦者が十分すぎるくらい守って47点差の終局。カルカソンヌには札の巡りでこんな結末も？チャンプが付け入る余地があったかは現時点でわからない。

決勝戦終局の盤面。



おまけ

大会日程外で文房具を物色したので、鉛筆関係を紹介。

(1) "the Perfect Pencil"

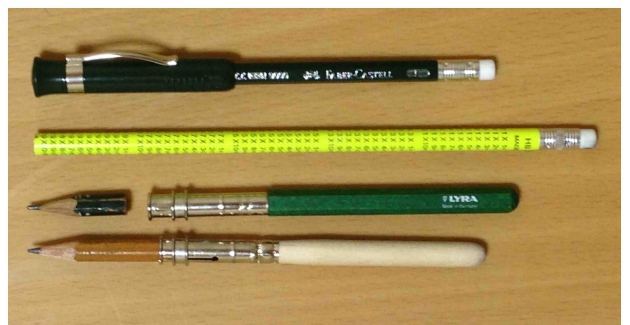
老舗鉛筆メーカーによる、削り機を内蔵する鉛筆用キャップ。英語ネーミングなのは愛嬌。

(2) かけ算九九えんぴつ

細かな字で10の段まで書かれてある。

(3) 鉛筆フォルダ

操作简单、短い鉛筆もつかむ、木製。鉛筆を指した状態で重心が親指の股より前にくる。



中央が優勝者、ギリシャ代表のパンテリスさん。